

お手入れ時の注意事項

商品を長くお使いいただくため、本書に従ってこまめにお手入れを行ってください。
お手入れせずに放置すると、表面に付着した汚れが、しみや腐食の原因となり、他の不具合につながる可能性があります。特に海岸地域や交通量の多い道路沿いは、塩分や排気ガスの影響により、しみや腐食が進みやすくなります。

また、ご自身で調整を行う場合も、本書に従って行ってください。

ご自身で調整しても不具合が改善されない場合は、まずお取り扱いの建築業者、工務店、販売店、または当社お客様相談室に修理を依頼してください。

お願い

【調整する場合】

商品を調整する際は、電動ドライバーを使用しないでください。
商品の不具合や破損の原因となります。

【水への配慮】

お手入れの際、窓やドアにホースや高圧洗浄機などで勢いよく水をかけないでください。
室内側へ水が入るおそれがあります。

【薬品への配慮】

お手入れの際、有機溶剤（シンナー、ベンジン、アセトンなど）を使用しないでください。
有機溶剤が付着すると、ひび割れやはがれなどが発生するおそれがあります。

お手入れの際、塩素系薬品（次亜塩素酸ナトリウムを含む漂白剤・カビ取り剤など）やエチルアルコールを使用しないでください。
表面に付着すると変色するおそれがあります。
付着した場合はすみやかに洗い落としてください。



【キズへの配慮】

たわしや金属たわしなどは、絶対に使用しないでください。
商品にキズがつくおそれがあります。

布やスポンジに砂などが付着したままふき掃除をしないでください。
商品にキズがつくおそれがあります。

お願い

【樹脂製商品】

ストーブやアイロンなどの熱源を近づけないでください。
熱源を近づけたり、触れたりすると、変形することがあります。

樹脂表面に、殺虫剤などの薬剤を塗布・散布しないでください。
薬剤が付着すると、ひび割れやはがれなどが発生するおそれがあります。

【ガラス】

お手入れの際は、必ず柔らかい布をご使用ください。
ガラス表面にキズがつくと、割れるおそれがあります。
ガラス表面にキズがついた場合はお早めに、お取り扱いの建築会社、工務店、
販売店、またはお客様相談室にご相談ください。

【電動商品】

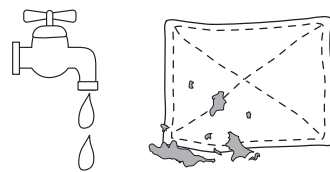
お手入れの際、電装部品に水がかからないようご注意ください。
水がかかると、故障するおそれがあります。
電装部品に不具合が生じた場合は、まずお取り扱いの建築業者、工務店、販売店、または
お客様相談室にご相談ください。

お手入れ方法

■通常のお手入れ（ハンドル・引手含む）

1 表面のホコリ・砂を落とす

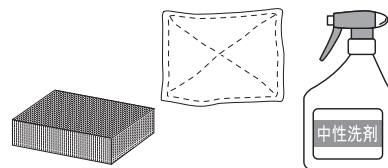
柔らかい布に水を浸し、表面についたホコリ・砂などを洗い落とします。



2 水ぶきする

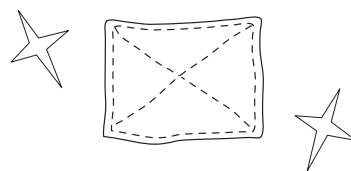
柔らかい布またはスポンジで全体を水ぶきします。

※水ぶきで落ちない場合は、中性洗剤（1～2%の水溶液）で軽く洗い流します。



3 水分をふき取る

乾いた布で、十分に水分をふき取ります。



■樹脂窓の汚れが落ちにくい、白っぽく見える場合

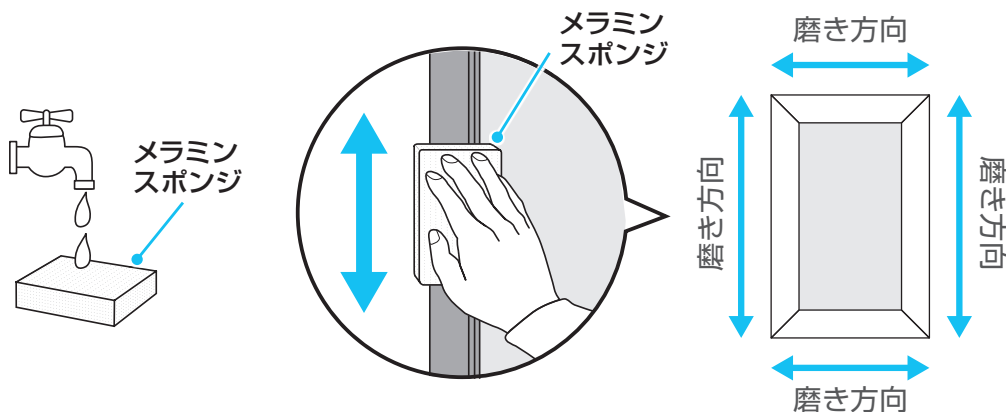
1 メラミンスポンジで磨く

メラミンスポンジに水を含ませ、汚れ面にキズがつかない程度で均一に押し付けながら部材全体を長手方向に沿って磨きます。（目安として3～10往復程度）

※汚れが落ちない場合は、徐々に力を加えながら磨いていきます。

お願い

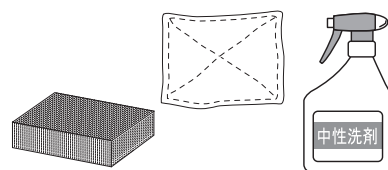
- 初めに目立たない部位で磨く際の力加減を確認してください。強く擦りすぎると、色ムラやテカリの原因となるおそれがあります。



2 水ぶきする

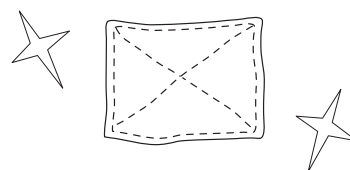
柔らかい布またはスポンジで全体を水ぶきします。

※水ぶきで落ちない場合は、中性洗剤（1～2%の水溶液）で軽く洗い流します。



3 水分をふき取る

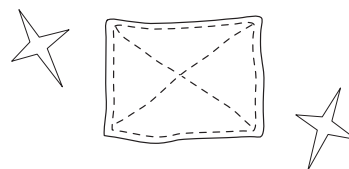
乾いた布で、十分に水分をふき取ります。



■結露・雨水などがかった場合

1 水分をふき取る

すみやかに乾いた布で、十分に水分をふき取ります。



■リモコンのお手入れ

1 柔らかい布で空ぶきする

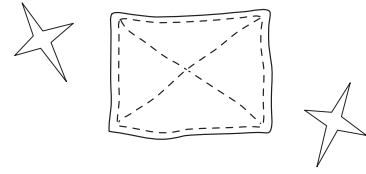
表面の汚れは、乾いた布や綿棒で軽くふき取ってください。

⚠️ 注意

- お手入れの際、誤ってリモコンのボタンを押さないようご注意ください。意図せず商品が作動し、思わぬ事故やけがにつながるおそれがあります。

お願い

- リモコンを水拭きしないでください。リモコンの中に水が入ると故障の原因となります。



下枠・レール

- 下枠やレールは、特に砂、ホコリ、ゴミなどがたまりやすいところです。こまめにお手入れしてください。

1 砂やホコリを吸い取る

レールのミゾ内部にたまった砂やホコリを掃除機で吸い取ります。

または、やわらかいブラシで砂やホコリを落とします。



2 汚れをふき取る

割り箸の先に布を巻き付け、さらに汚れをふき取ります。



ガラス

- ラスに浮き出る吸盤やラベルの跡について

ガラス表面が曇った時など、製造や施工の際に使用する吸盤の跡や、施工時に貼ってあるラベルの跡が浮き出てくる場合があります。

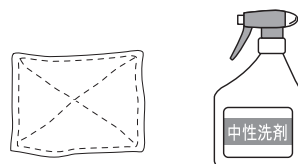
これは、ガラスの機能や性能に影響を及ぼすものではありませんが、通常のクリーニングでは除去できない場合があります。中性洗剤で落とすことが難しい場合は、カー用品店やホームセンターで購入できる「自動車用油膜除去剤」（酸化セリウム配合）で除去できます。

ご使用にあたっては、「油膜除去剤」に添付されている取扱説明書をよくお読みのうえ、ご使用ください。

■ガラスのお手入れ

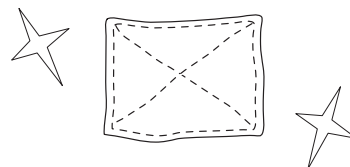
1 汚れをふき取る

柔らかい布に中性洗剤（1～2%の水溶液）を浸し、汚れをふき取ります。



2 水分をふき取る

乾いた布で、十分に水分をふき取ります。



引違い窓

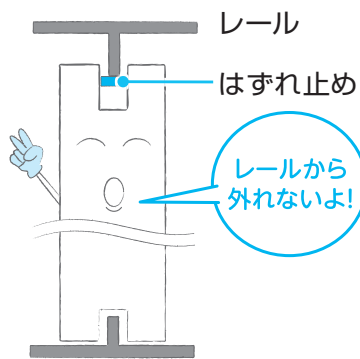
ご使用前に確認してください

- 必ず、P.5「第1章 安全にお使いいただくために」を確認したうえでご使用ください。

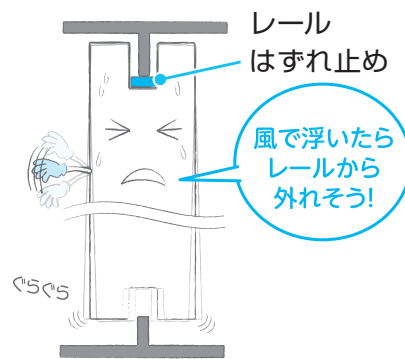
はずれ止めとは

はずれ止めは、強風などで窓が脱落、落下するのを防止するための部品です。窓をはずす時以外は、必ずはずれ止めをセットしてください。

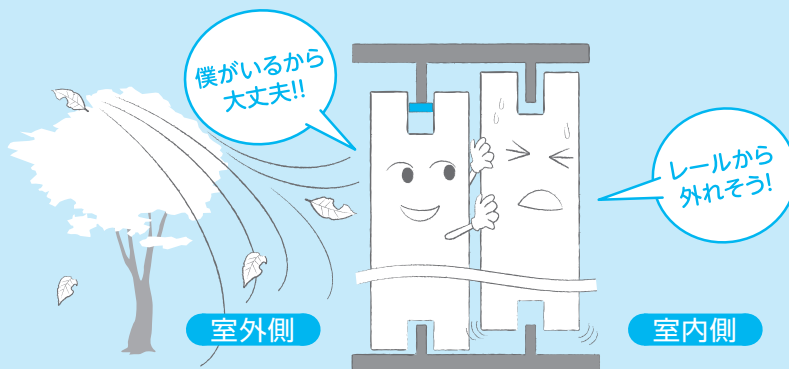
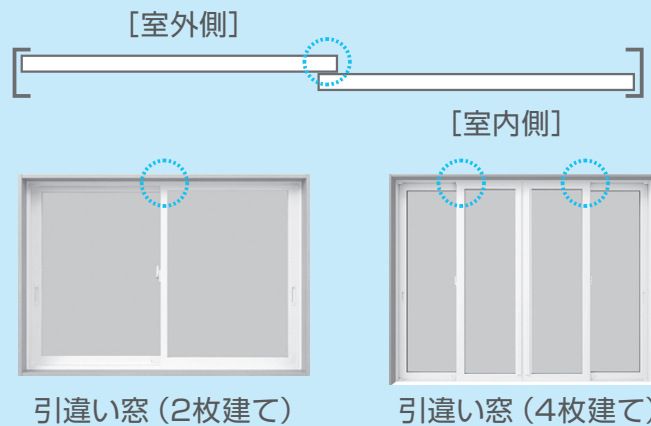
はずれ止めがセットされた状態



はずれ止めが解除された状態

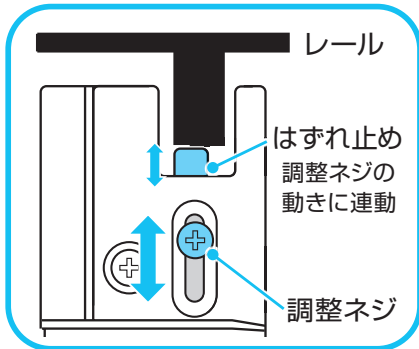
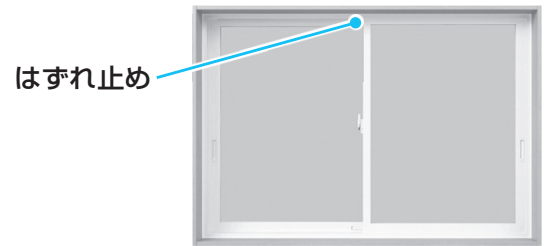


はずれ止めは室外側の窓（室内側の窓と重なる部分）にあります。



はずれ止めの解除方法

調整ネジの動きに連動して、はずれ止め（金属部品）が上下に動きます。



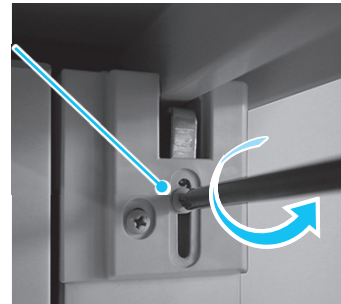
1 調整ネジをゆるめる

プラスドライバーで調整ネジを反時計回りにまわしてゆるめます。

お願い

- ネジは絶対にはずさないでください。窓内部の部品がはずれ、元に戻せなくなるおそれがあります。

調整ネジ



2 調整ネジを下げる

ドライバーをさしたまま、調整ネジを一番下まで下げます。

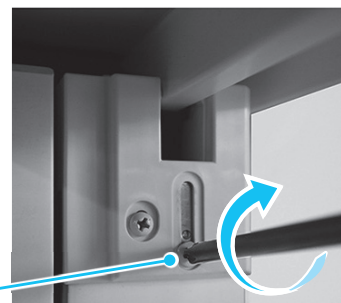
※ 調整ネジと連動し、はずれ止めが解除されます。



3 調整ネジをしめる

調整ネジを時計回りにまわしてしめます。

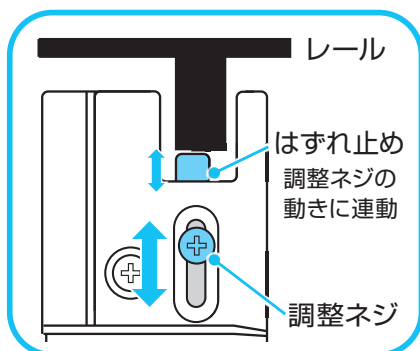
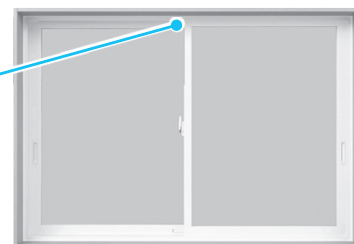
調整ネジ



はずれ止めのセット方法

調整ネジの動きに連動して、はずれ止め（金属部品）が上下に動きます。

はずれ止め



セットされた状態



解除された状態



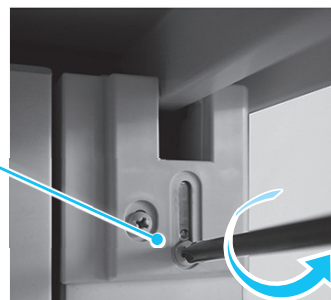
1 調整ネジをゆるめる

プラスドライバーで調整ネジを反時計回りにまわしてゆるめます。

お願い

- ネジは絶対にはずさないでください。窓内部の部品がはずれ、元に戻せなくなるおそれがあります。

調整ネジ



2 はずれ止めを上げる

ドライバーをさしたまま、調整ネジを一番上まで上げます。

※調整ネジと連動し、はずれ止めがセットされます。



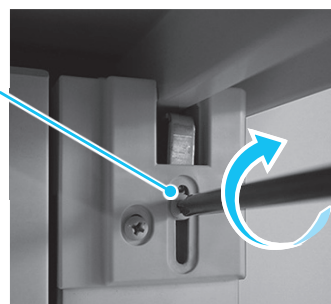
3 調整ネジをしめ、窓の開閉を確認する

調整ネジを時計回りにまわしてしめ、窓の開閉に支障がないことを確認します。

※窓が動かしにくい場合は、手順1～3を繰り返し、はずれ止めを少しずつ上げてください。

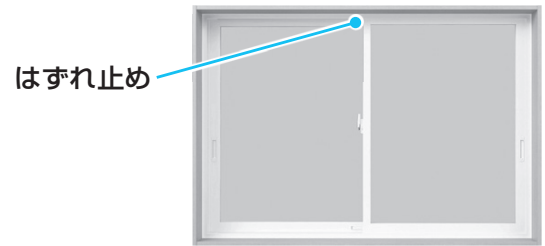
※窓を持ち上げるようにして窓がレールからはずれないことを確認します。

調整ネジ



窓の取りはずし方

引違い窓の取りはずしは室内側で行います。



⚠ 注意

- ガラスの入った窓は重量があります。
窓の脱着は、必ず2人以上で行ってください。
窓を落下させるなど、思わぬ事故やけがにつながるおそれがあります。

1 窓をはずす

窓を持ち上げ、窓の下部を手前に引いて下レールからはずします。



2 はずれ止めを解除する

窓のはずれ止めを解除します。

→P.110「はずれ止めの解除方法」

3 窓をはずす

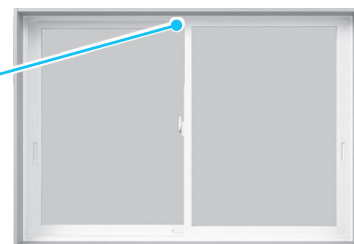
窓を持ち上げ、窓の下部を手前に引いて下のレールからはずします。



窓の取り付け方

引違い窓の取り付けは室内側で行います。

はずれ止め



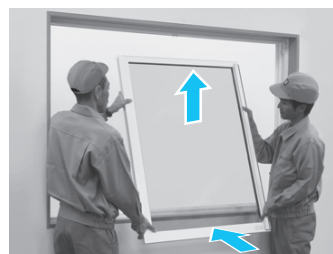
⚠️ 注意

- ガラスの入った窓は重量があります。
窓の脱着は、必ず2人以上で行ってください。
窓を落下させるなど、思わぬ事故やけがにつながるおそれがあります。

室外側窓

1 窓をはめ込む

窓の上部を上側のレールにはめ、窓を持ち上げて下のレールにはめ込みます。



2 窓のはずれ止めをセットする

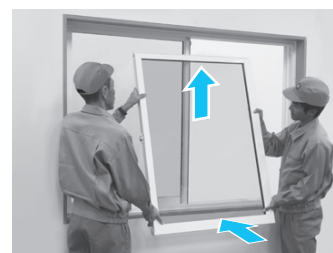
窓のはずれ止めをセットし、窓がはずれないことを確認します。

→P.111 「はずれ止めのセット方法」

室内側窓

3 窓をはめ込む

窓の上部を上側のレールにはめ、窓を持ち上げて下のレールにはめ込みます。



第4章

窓

網戸

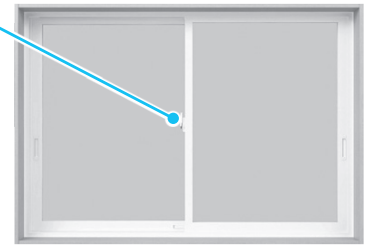
ドア

お手入れ

クレセントの調整方法

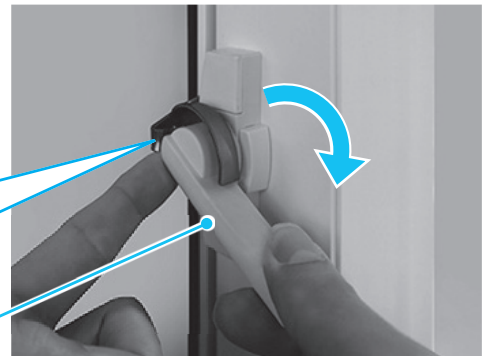
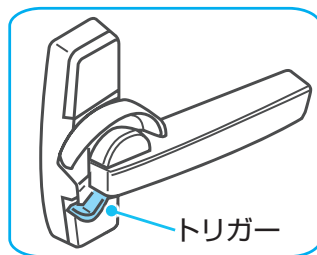
クレセントをロックしても窓ががたついたり、ロックしにくくなったりしたときには、クレセント本体とクレセント受けの位置が合っていない可能性があります。ここでは、クレセント本体の位置を上下に調整する方法を説明します。

クレセント
(主錠)



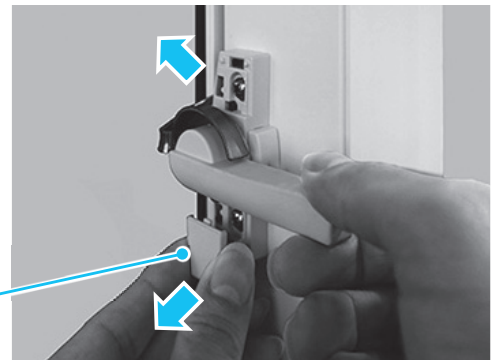
1 クレセントのノブをまわす

トリガーを指で押さえながら、クレセントのノブを中央位置までまわします。



2 カバーをはずす

カバーをはずし、ネジが見える状態にします。

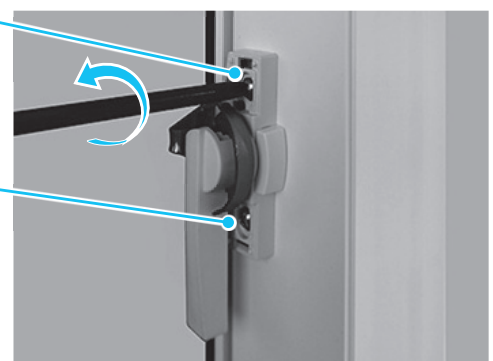


3 ネジをゆるめる

プラスドライバーで上下のネジを反時計回りにまわしてゆるめます。

ネジ

ネジ



お願い

- ネジは絶対にはずさないでください。部品が落下するおそれがあります。

4 クレセントの位置を調整する

クレセントを上下に動かして位置を調整します。

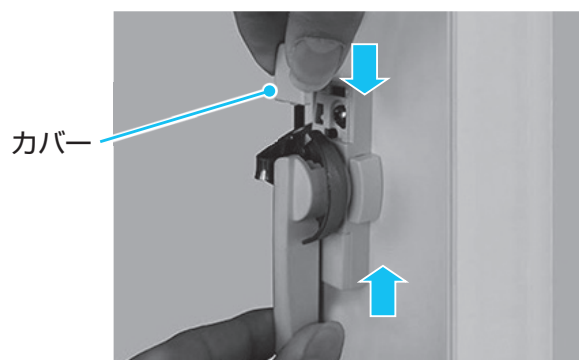


5 ネジをしめる

上下のネジを時計回りにまわしてしめます。

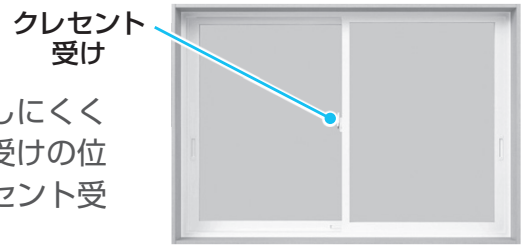


6 カバーを取り付ける



クレセント受けの調整方法

クレセントをロックしても窓ががたついたり、ロックしにくくなったりしたときには、クレセント本体とクレセント受けの位置が合っていない可能性があります。ここでは、クレセント受けの位置を左右に調整する方法を説明します。

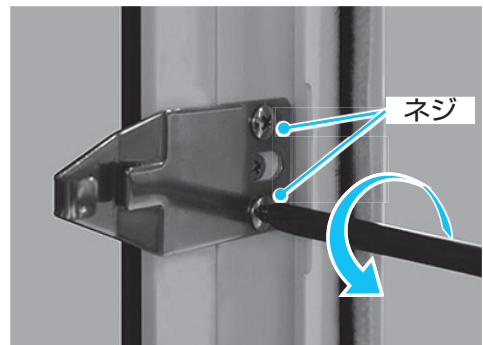


1 ネジをゆるめる

プラスドライバーで上下のネジを反時計回りにまわしてゆるめます。

お願い

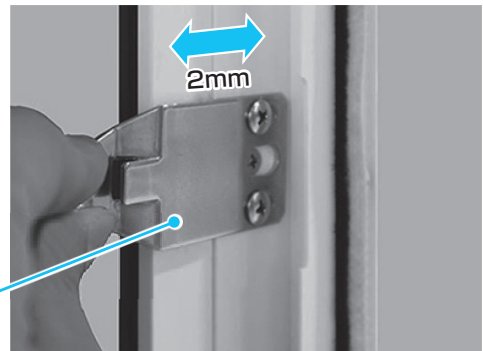
- ネジは絶対にはずさないでください。部品が落下するおそれがあります。



2 クレセント受けの位置を調整する

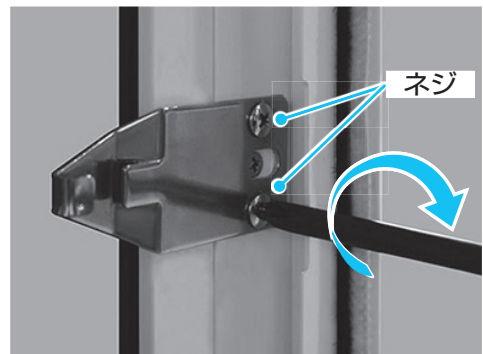
クレセント受けを左右に動かして位置を調整します。

※動かせる範囲は約2mmです。



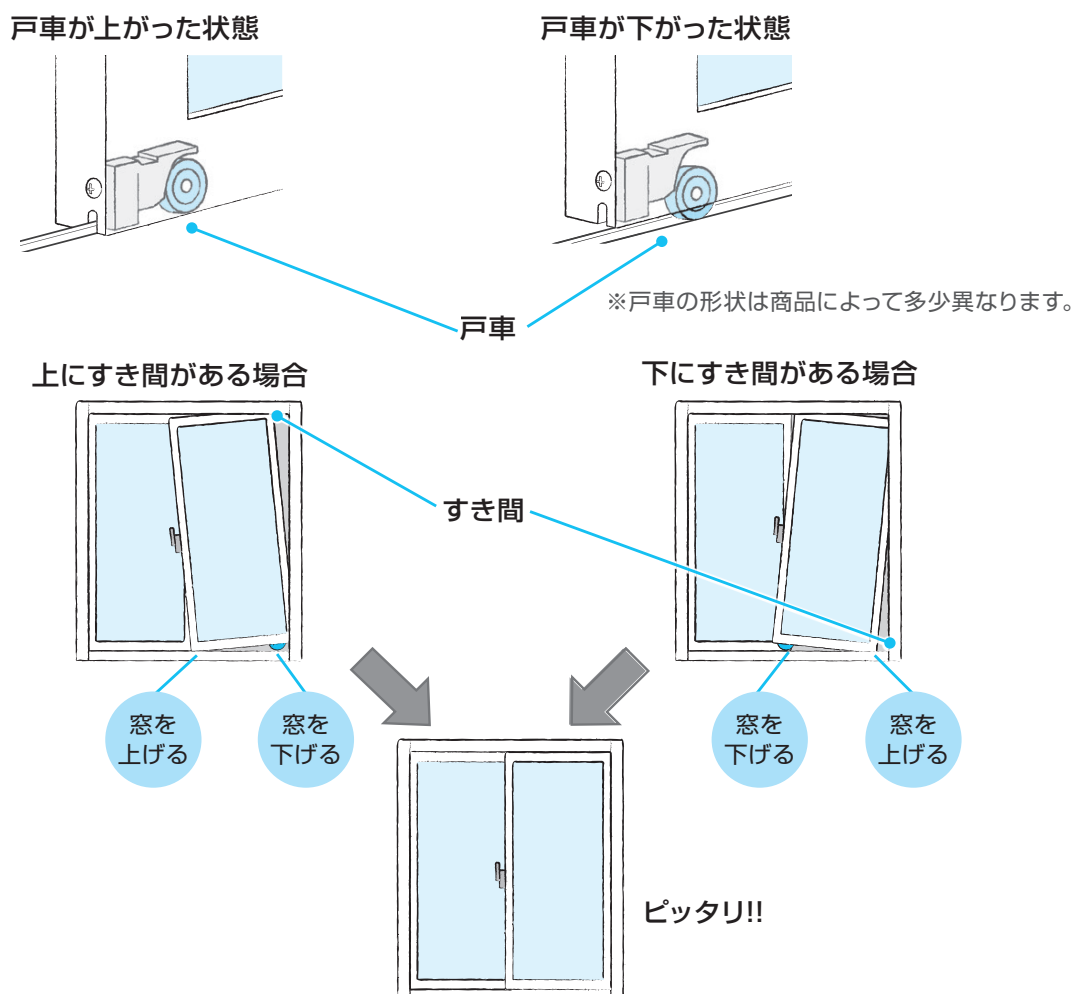
3 ネジをしめる

上下のネジを時計回りにまわしてしめます。



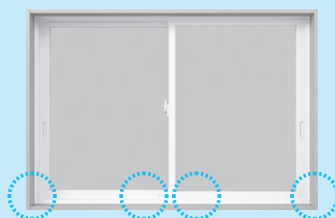
戸車とは

各窓の下両端（内部）にある車輪状の部品で、戸車を調整すると窓の高さが変わり、傾きを調整することができます。窓がピッタリ閉まらないときは、戸車を調整してください。



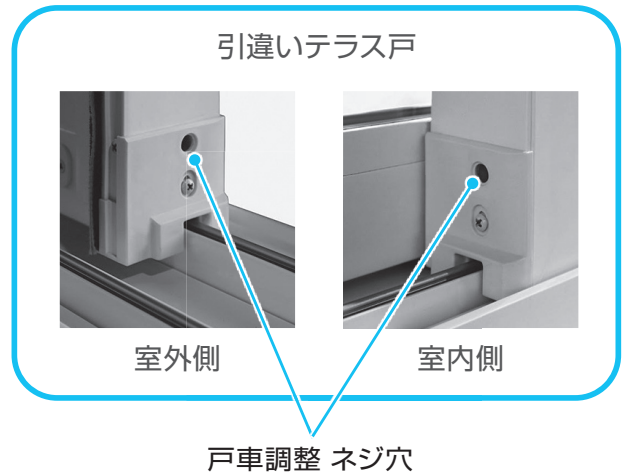
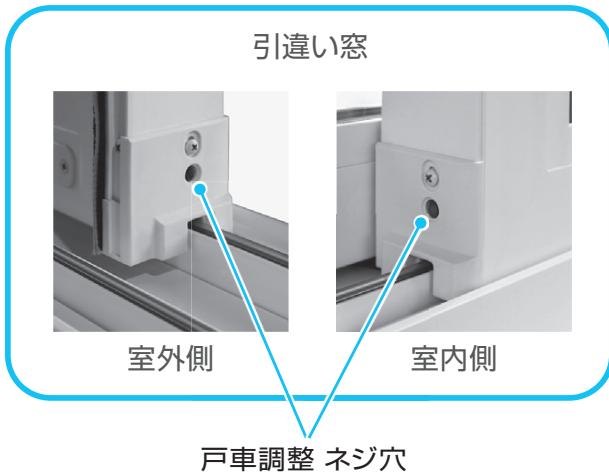
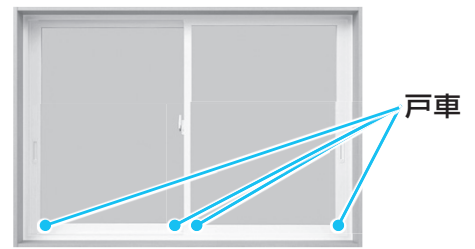
戸車は、各窓の下両端にあります。

引違い窓



戸車の調整方法

戸車の調整ネジの位置や形状などは、商品によって異なる場合があります。
ここでは、窓タイプを例に説明します。



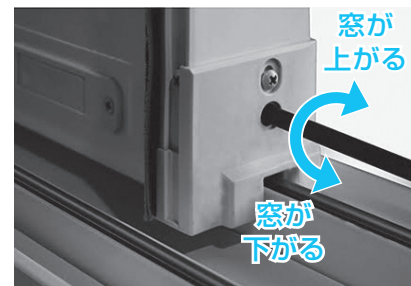
1 ネジ穴キャップをはずす

2 戸車の高さを調整する

プラスドライバーまたは、六角レンチ（引違いテラス戸 重量ガラス仕様の場合）をネジ穴に差し込み、調整ネジをまわして戸車の高さを調整します。

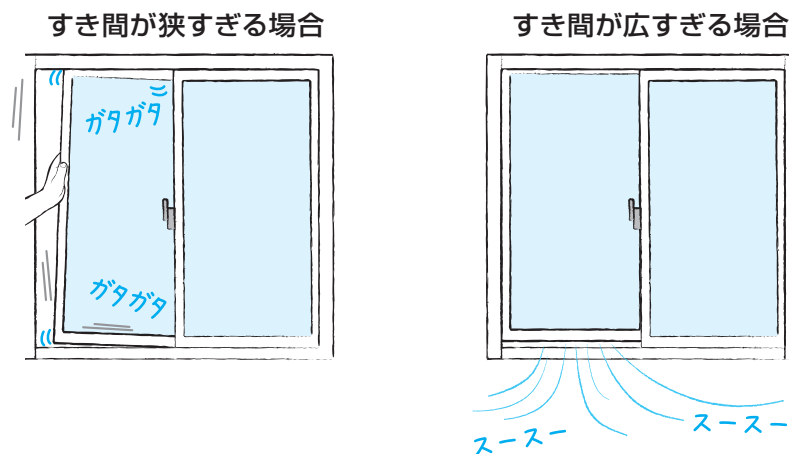
お願い

- ネジは絶対にはずさないでください。窓内部の部品がはずれ、元に戻せなくなるおそれがあります。



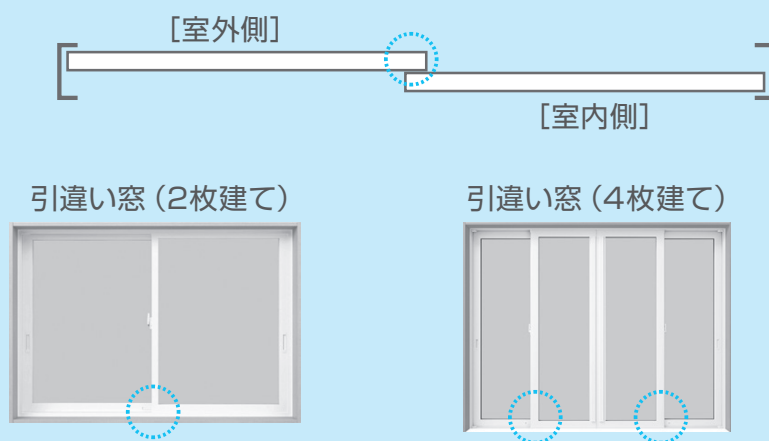
下部摺動片しゅうどうへんとは

窓の下枠とレール上にある風止板とのすき間を調整する部品です。
すき間が狭すぎると窓が動かしにくくなり、すき間が広すぎると、室外からすき間風や雨が入ります。
商品によっては、ゴム製のすき間風防止機能を兼ね備えているタイプもあります。



※下部摺動片の形状は商品によって多少異なります。

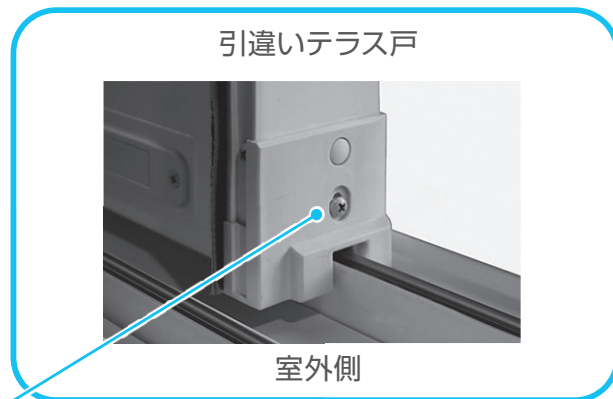
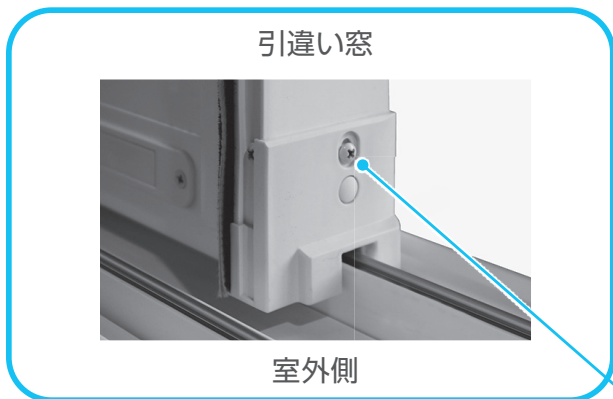
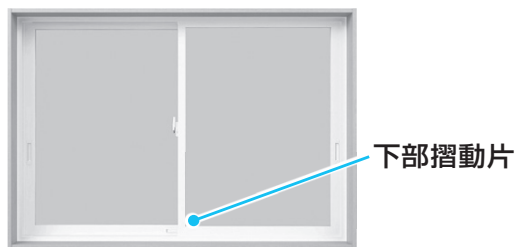
下部摺動片の調整ねじは、室外側の窓枠（室内側の窓と重なる部分）にあります。



下部摺動片の調整方法

しゅうどうへん

下部摺動片の形状や固定ネジの位置などは商品によって異なる場合があります。ここでは、窓タイプを例に説明します。



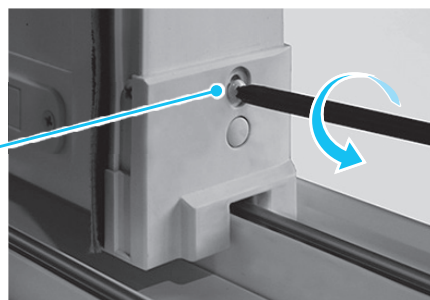
下部摺動片固定ネジ

1 固定ネジをゆるめる

プラスドライバーで固定ネジを反時計回りにまわしてゆるめます。

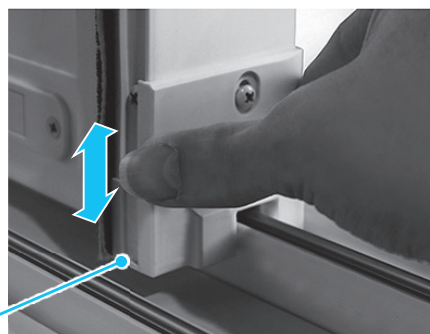
お願い

- ネジは絶対にはずさないでください。窓内部の部品がはずれ、元に戻せなくなるおそれがあります。



2 下部摺動片の位置を調整する

下部摺動を開閉に支障のない範囲まで下げて調整します。



3 固定ネジをしめる

固定ネジを時計回りにまわしてしめます。

